

令和2年度 富士宮野球連盟少年部 学童軟式野球大会実施要項

【参加資格】

- (1) 富士宮野球連盟学童部登録の単独チーム
- (2) リトルリーグなど硬式を使用球にしている団体に登録している者は出場できない
- (3) チームのメンバーは代表者 1 名、監督(背番号 30)、コーチ 2 名(背番号 28、29)スコアラー 1 名 計 5 名と登録選手 20 名以内とする
- (4) ベンチに入る監督・コーチは指導者認定証の携行と指導者ワッペンをユニホームへ取付けること

【適用規則】

最新の公認野球規則書及び競技者必携、ならびに県連特別規則による

- 守備の時間が長い場合には、健康維持を考慮し、審判員の判断で給水タイムを設けることとする(ロスタイルとして処理)

【試合方法】富士宮支部のローカルルールです。

- 試合は 7 回戦とし、正式試合になる回数を 5 回とする
- 試合時間はプレイボールから 100 分以内とする。90 分を越えて、次のイニングには入らない事とする。但し、5 回に満たないで 100 分を超える場合は時間を優先とする
- 7 回を完了(又は 100 分を超える)同点の場合は、特別継続イニングを最長 2 回まで行う。但し、特別継続イニングは 120 分を越えて新しいイニングに入らないこととする
- 特別継続イニングは継続打順で、無死一、二塁の状態で行う
- 特別継続イニングで決着がつかない場合は、両チーム試合終了時の打順により 9 名ずつで抽選を行う
- 決勝戦は、原則として時間無制限、点差によるコールドゲームありの 7 回戦制で行う。しかしながら、両チーム指導者の試合前の話し合いによってはこの限りではない。
(7 回を終了時に同点の場合は特別継続イニングを最長 2 回まで時間無制限で行う。
9 回までに決着が付かない場合は上記抽選方法に従う。決勝戦で抽選が行われた場合は両チーム優勝とするが、抽選勝ちのチームを支部代表と定め、優勝旗・優勝杯・副賞もなども抽選勝ちチームに贈呈する)
- 後攻チームが勝っている場合でも制限時間を超えた場合は次のイニングには入らない
(後攻チームが勝っている状態で、しかも攻撃中に制限時間を越えた場合、その時点でゲームを止め時間切れコールドゲームとする)

- ・ジュニア大会の試合方法は、レギュラー戦に準ずる。
- ・スーパージュニアの大会に限っては試合時間90分(80分を超えて次のイニングに入らない)
- スーパージュニアの大会は3回、15点差コールドあり。1回2回で80分を超えた、又は15点差を超えてしまった場合、両監督の協議で試合成立でも可とする。
- スーパーは3回で試合成立とする。

【リーグ戦】富士宮支部ローカルルール

- 大会毎に1回戦を3チームずつに分けたリーグ戦を行う場合がある
- リーグ戦を行った場合、2回戦進出チームを1チームにする大会と2チームにする大会がある
- リーグ戦を行った場合でも上記の【試合方法】に従う。但し、特別継続イニングは行わずに引き分けとする。コールドゲームも適用する。
- リーグ戦の順位は、①勝敗分数、②失点差、にて決定する。
- 1勝1敗、若しくは1敗1引き分けで3チーム若しくは2チームが並んだ場合は以下の計算式にて、得失率にて順位を決める。
失点×7÷回数(実際に行ったイニング数)=失点率
- リーグ戦の各ブロックの代表は、当該3チームで責任を持って代表を決定することとする。

【コールドゲーム】

点差による場合は、5回以後10点差あるときにコールドとする（雨天、日没も5回で成立）

【シートノック】

各チーム5分間行う(但し、運営上省略することもある)

【ベンチ】

抽選による若番号のチームを一塁側とする。

【メンバー交換及びトス】

- 各チームにて用意した交換用紙(複写式)に記入、提出する(第2試合以後は4回終了時、又は試合開始時刻の30分前に交換を行う)
メンバー表のメーカー指定は無し。各チームで用意したものを使用。
- 第2試合のチームは試合開始予定時刻の1時間前には会場入りする事とする。

【傷害保険】

スポーツ傷害保険に全員加入のこと(大会期間中は保険証を携行してください)

【用具・服装】

- (1) 監督・コーチは選手と同一の服装(ユニホーム、帽子、アンダーシャツ、アンダーストッキング、ソックス)のこと
- (2) カラーソックスのみの着用は認めない。
- (3) ベンチに入る代表者・スコアラーはユニホームを着用しない(但し、帽子は必ず着用する)
- (4) シートノックの補助員としてコーチ(背番号28番、29番)を認める。
試合中のブルペンでの投球練習時、コーチのキャッチャーは認めない。
- (5) 試合用具は必ずJSBB公認のものを使用すること(試合前に審判員が点検することもある)
- (6) 捕手はプロテクター、レガース、捕手用ヘルメット、ファウルカップを必ず着用すること(シートノック時、およびブルペンでの投球練習時も)
- (7) 指導者が長髪、茶髪の場合、少年部長の判断により1回の警告後、改善が認められない者はその日以降の試合でのベンチ入りを禁止する。ピアスは禁止
- (8) 指導者のサングラス着用は認める。ただし、帽子のツバ上に載せている状態での着用は禁止する。
- (9) 給水担当者は4人までベンチ入りできる。ただし、ビブス着用の事。

【変化球に関して】

- (1) 県連特別規則により、学童野球の投手は変化球を投じることを禁止されている
- (2) スローボールは変化球とみなさない
- (3) チェンジアップは変化球とみなし禁止する。腕の振り、ボールの握り、ボールの回転によって球審が判断する。必要ならば投手のもとへ行って握りを確認する
- (4) 投球が変化球とみなされた場合、公認野球規則8.00の「反則投球」を適用する
 - (ア)「変化球」(反則投球)は全てボールの判定
 - (イ) 1球目は投手及び守備側ベンチへ注意、2球目は投手及び守備側ベンチへ厳重注意
 - (ウ) 3球目以降(変化球を修正出来ない場合)は、守備側ベンチ指導者へ投手交代を促す

【臨時代走について】連盟特別規則

プレーヤーが負傷(頭部への死球は即時)等で治療が長引く場合は、相手チームに伝え、試合に出ている9人の中から代走(打順の前位の者、ただし投手、捕手を除く)を認め試合を進行させる。

【投球制限に関して(全軟連通達事項参照)】

投手は1人1日7イニングまでの投球制限とする。なお、(レギュラー戦登板の)三年生以下にあっては、1日5イニングしか投げられないとする。

投球イニングに端数が生じたときの取り扱いについては、三分の1回(アウト一つ)未満の場合であっても、1イニング投球したものとして数える。但し、同一試合で再登板があった場合は端数も計算に含めた7イニングとする。例えば、三回と三分の一投げた投手が、同一試合で再登板の場合は三回と三分の二は投球することができる

【タイム制限】

- (1) ベンチ入りしている指導者(投手のもとへ行けるのは監督のみ。もしくはその試合の代理監督)が投手のもとへ行ける回数を制限するため、公認野球規則 8.06 を適用する。ただし、交代した投手が他のポジションにつくことは差し支えない(公認野球規則 3.03 原注の前段は適用しない)
- (2) 指導者が1試合(7イニング)に投手のもとへ行ける回数を3回までとする。ただし、投手を交代させた場合は回数として数えない。時間は審判がタイムを宣告後 30 秒以内とする
- (3) 指導者が1試合に2回投手のもとへ行った後、3回目に行けばその時の投手は自動的に交代にする。ただし、交代した投手は他のポジションに付くことができる
- (4) 特別延長戦に入った場合、指導者はそれ以前のタイムの回数に関係なく2イニングに1回投手のもとへ行くことができる
- (5) 2人以上の野手(捕手を含む)が投手のもとへ行ける回数を1試合に3回とし、4回目以降に行くことは許されない
- (6) 投手交代の際、指導者と共に野手がマウンドに集まることは、指導者のタイムとしてカウントされ(投手交代の場合はカウントされない)、2人以上の野手が投手のもとへ集まつた場合は守備のタイムとしてカウントする。
- (7) 特別延長戦に入った場合、2人以上の野手(捕手を含む)はそれ以前の回数に関係なく、1イニングに1回投手のもとへ行くことができる
- (8) 攻撃側の指導者が打者・走者に指示を与えるためのタイムの回数は、1試合(7イニング)に3回までとする。時間は審判がタイムを宣告後60秒以内とする
- (9) 特別延長戦に入った場合、指導者はそれ以前のタイムの回数に関係なく2イニングに1回打者・走者に指示を与えることができる
- (10) 守備側チームのタイムの最中に、攻撃側チームの指導者は打者・走者を呼んで指示を与えることができるが、守備側のタイムより長引ければ攻撃側のタイム1回としてカウントされる。

(11) 攻撃側チームのタイムの最中に、守備側のチームの指導者が投手のもとへ行って指示を与えた場合は、攻撃側のタイムより長ければ守備側のタイム 1 回としてカウントされる。

【注意事項他】

- (1) 抽選会には必ず出席すること（電話による依頼抽選には応じません）
- (2) 申し込み締切日を過ぎての登録選手の変更は、一切できません
- (3) ベンチ内のメガホンは 1 個に限り使用を認める
- (4) 鳴り物入りの応援は、球場により事情が異なるので、事前に本部の許可を受けること
- (5) バッドボーイ、ボールボーイは登録選手に限る（ヘルメット着用の事）
- (6) ベンチ内で相手チームに対する聞き苦しい野次は厳禁する（スタンドからの野次もチームの責任とする）
- (7) 審判員に対するいかなる野次も厳禁とする。これに反する場合、当該チームの監督の責任とし、1回の警告後、2回目はベンチ・会場からの退場処分とする
- (8) 試合中、指導者の体罰が発覚した場合、監督及び当該指導者を警告無しにベンチ・会場から退場処分とする
- (9) ベンチ入りの監督・コーチは試合前に指導者証を審判員に提示すること。又、ベンチ入りする者の携帯電話等不要と思われる物の持込は禁止する
- (10) 試合時間が長引くことが予想される場合、途中からボール回しを禁止する場合もある

グラウンド内に入るのはベンチ入りメンバーのみとし、グラウンド整備時だけベンチ入りしていない選手（父母も）も可能とする。但し、ベンチ入りしていない選手はグラウンド整備終了後ただちにグラウンドから退場すること。

公式戦の試合前の練習は、背番号 30、29、28、以外の指導者もグラウンド入り可とする。ただし、指導者証（写真貼り付けの事）を持っているもので、ユニフォーム（練習着で可）着用のこと。

★県大会出場チームには、県大会参加料の半額を少年部より支給します。

県大会参加料の領収書（コピーで可）を少年部会計宛提出後支払います。

★支部予選において、駐車場の台数制限がある場合、厳守お願いします。

また、会場を提供してくれているチームより注意事項がある場合も厳守してください。

後から応援に来られる方へも各チームにて責任を持って伝達お願いします。

★12月の第3月曜日～翌年1月第3金曜日まで、対外試合は禁止とする

【支部予選スケジュール】

- 2月 しづぎんカップ 支部予選【リーグ戦】 決勝トーナメント進出は各ブロック1位と2位
前年度のジュニア大会のベスト4のチームにシード権を与える
- 3月～4月 全日本学童 支部予選【リーグ戦】 決勝トーナメント進出は各ブロック1位と2位
しづぎんカップ、ベスト4のチームにシード権を与える
- 4月 JA富士宮 選抜大会
- 5月 JA共済トーナメント支部予選【岳朝杯の為トーナメント戦】
全学ベスト4は2回戦から
- 6月～7月 マクドナルドジュニア 支部予選【トーナメント戦】
シード権の適用無し
- 7月 しづちゅう 支部予選【リーグ戦】 決勝トーナメント進出は各ブロック1位と2位
岳朝杯ベスト4のチームにシード権を与える
- 8月～9月 黒潮旗 支部予選【リーグ戦】 決勝トーナメント進出は各ブロック1位と2位
しづちゅうベスト4のチームにシード権を与える
- 10月～11月 静ガス杯 スーパージュニア支部予選【トーナメント戦】
シード権の適用は無し
優勝チーム=県大会出場、準優勝チーム=ゼット杯出場
- 12月 星陵杯【リーグ戦】 決勝トーナメント進出は各ブロック1位のみ
シード権の適用は無し
- 上記大会以外に、各地区の選抜大会への参加

確 認 事 項

★しづきんカップ優勝チームの主将は JA 杯富士宮選抜大会の選手宣誓を行う

★しづきんカップ 準優勝チームは市民スポーツ祭の開会式の入場行進への参加

★ジュニア大会の前年度優勝チームが開会式での選手宣誓

★星陵杯前年度優勝チームが開会式での選手宣誓

★東京ラスクの選抜チームの監督は、しづきんカップ優勝チームの監督へ依頼する

(※B チームは準優勝チームの監督に依頼する)

★富士宮支部内移籍

●新 5・6 年生の移籍は不可

※市内移籍が合った場合 5 年生で移籍しても 6 年生卒業迄登録出来ません

●新 4 年生以下は移籍は可

※移籍月を過ぎてからの移籍はその年の公式戦は不可

※移籍月を過ぎて移籍した人はベンチに入れない

●移籍月は 1 月 1 日～1 月 31 日迄

※移籍書は少年部長迄提出

※移籍書は少年部長・少年事務局が保管し必ず選抜大会・県大会時は確認する

※支部間の移籍は別途書類有り(支部長判が必要)

★移籍項目で違反が発覚され場合

●違反が発覚した次の大会と翌年の最初の公式戦にチームとして出場させない

【付則】

- 【制定】 2011年2月1日 「監督会議にて全会一致で承認」
【追加】 2011年5月1日 「変化球に関して」
【改定】 2011年5月24日 「適用規則」
【追記】 2011年5月24日 「試合方法」
【改定】 2011年5月24日 「変化球に関して」
【追記】 2011年5月24日 「用具・服装」
【追記】 2012年3月6日 「適用規則」ローカルルール/ポーク
【追記】 2012年3月6日 「参加資格」指導者のワッペン取付
【追記】 2012年3月6日 「メンバー交換」「トス」の時間追加
【改定】 2012年3月6日 「投手の投球制限に関して」
【解釈】 2013年6月10日 「リーグ戦の試合方法」を分かりやすく表現変更
【追記】 2018年1月13日 臨時代走についてを追記
【修正】 2018年1月27日 支部予選スケジュールを追記(しづぎん、星陵杯)
　　監督会議にて支部予選方式決定
　　試合前の指導者のグラウンド入場制限
　　試合時間、臨時代走(頭部死球の場合即時)
　　・リーグ戦の順位決定方式の修正、及び得失点差の計算式の追加記載(監督会議にて決定)
　　・注意事項への追加(県大会半額補助、駐車場注意事項)

【修正】 2019年2月23日
【修正】 2019年10月14日 スーパージュニアの実施要項追加
　　ラスク監督決定方法削除
【修正】 2019年12月29日 タイム制限、大会実施要項、移籍方法を追加、修正

チーム移籍申請書

富士宮市野球連盟 少年部長様

児童名_____ 親_____ 印_____は
所属するスポーツ少年団_____
から_____へ、野球連盟少年部規約を順
守したうえで移籍をしたく、ここに申請いたします。

令和 年 月 日

○旧所属チーム代表者：_____ 印

○新所属チーム代表者：_____ 印

○野球連盟 少年部長：_____ 印

※本申請書は移籍当該シーズン間は保管することとする。